

The 18th Tetrahedron Symposium Asia Edition に参加して



目で見ると
海外論文発表

太田 礼伊也*

—Poster Presentation at The 18th Tetrahedron Symposium Asia Edition—

Key Words : Organic synthesis, polyamine

<参加会議名> The 18th Tetrahedron Symposium Asia Edition

<開催場所> Melbourne, Australia

<渡航期間> 2017年7月22日～2017年7月28日

<発表タイトル>

Design and Synthesis of (+)-Hypusine Analogue to Obtain its RNA Aptamers

この度、私は一般社団法人生産技術振興協会の海外論文発表奨励賞を賜り、2017年7月22日から28日にかけて、The 18th Tetrahedron Symposium Asia Editionに参加し、研究成果をポスターにて発表しました。本国際会議は、出版社のElsevier社が主催する国際会議で、毎年開催されています。討論内容は、有機合成化学を中心に、ケミカルバイオロジーや有機金属化学と多岐にわたります。本年はオーストラリアのメルボルンで開催されましたが、豪州化学会の100周年として、同所で同時開催の他7学会にも参加する機会を得ました。13件の招待講演と約150件のポスター発表から構成され、活発な討論が行われました。特別講演にはノーベル賞受賞者のRobert Grubbs博士やBen Feringa博士など、第一線で活躍する研究者が招待されていました。特別講演はどれも魅力的な内容で、非常に勉強になりました。

私は本会議において、「樹脂担持型ハイプシン誘導体の設計と合成」に関して発表しました。多数の海外研究者が興味を示して、活発なディスカッションをすることができました。研究内容について質問や有益なアドバイスなど、今後の研究に役立つ成果を得ることができました。また、海外の若手研究者たちの質の高い研究に接し、国内だけでなく世界水準での視野が必要であることを痛感しました。

今回の国際会議では、自身の研究成果を発信するのみならず、世界中の研究者と交流を深める貴重な機会を持つことができました。最後になりましたが、本国際会議への参加に際して多大なるご支援を下さいました貴協会に、心より御礼申し上げます。



メルボルンの景色



メルボルンの夜景



学会会場



会場内の様子1



* Reiya OHTA

1991年12月生

大阪大学大学院 薬学研究科 創成薬学

専攻 博士前期課程修了 (2016年)

現在、大阪大学大学院 薬学研究科 創

成薬学専攻 分子合成化学分野

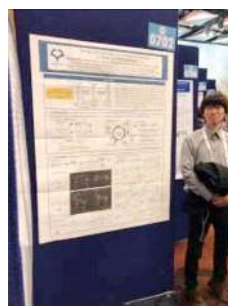
大学院生 博士後期課程2年

修士(薬学) 有機合成化学

TEL : 06-6879-8227

FAX : 06-6879-8229

E-mail : oota-r@phs.osaka-u.ac.jp



ポスター発表



会場内の様子2